②教職員数

設置学部等	教育職員	教員増減	事務職員	職員増減
福岡工業大学	146	4	86	▲1
工学部	60	0		
情報工学部	56	1		
社会環境学部	30	3		
福岡工業大学短期大学部	17	0	4	▲1
福岡工業大学附属城東高校	73	2	6	0
（合　計）	236	6	96	▲2

注 1）教職員数は平成 19 年 4 月 1 日現在、教職員増減は平成 18 年 4 月 1 日現在との比較
注 2）上表の他高校教育嘱託 1 名　　注 3）上表に非常勤教職員は含まない。

2．事業・投資活動の概要

（1）定常的事業（一般予算によって実施した事業）

各設置校の学科等や事務局での定常的な活動、並びに施設・設備営繕（管財課予算）に要する費用（毎年定量的に発生する消耗品、光熱水費、印刷費など）は一般予算で実施しています。

各部門等の予算執行状況については以下のとおりです。③高校予算は生徒増に伴う経費増を主因として、④大学事務局は東京事務所移転費用、学内合同企業面談会費用（実施回数増）、派遣職員配置費用等により、それぞれ予算超過したものの、全体として、当初予算の範囲内で適正な執行と言えます。

なお、四半期（3 ヵ月）ごとに執行状況や計画変更の調査・点検を行い、厳格な予算管理に努めており、上記予算超過にあたっても、事前の承認手続きを適正に行っています。

（千円単位）

部門等	予　算 *1	決　算	差　異	予算執行率
①大学教学（学科、共同施設等）	387,569	361,973	25,596	93.4 %
②短　大	12,606	10,150	2,455	80.5 %
③高　校	121,520	124,046	▲2,526	102.1 %
④大学事務局	579,444	602,283	▲22,838	103.9%
⑤施設・設備営繕（管財課）	370,000	369,294	705	99.8%
（合　計）	1,471,139	1,467,746	3,393	99.7%

*1　予算は配分調整・補正後の予算である。

（2）重点的事業（特別予算を中心に実施した事業）

当年度予算配分の重点は「教育力の充実（①教育の質保証、②進路保証）とこれを主体とする学生・生徒の③募集力強化」に置いています。これらに対して、各設置校、学科・専攻等及び事務局から、定常的な活動に加えて事業の立案と予算要求を行い、学園全体の事業計画の中に相互調整したうえで組み込み、積極的に実行しています。

下表のとおり、①教育の質保証と②進路保証に関して、大学では、「(1)教育内容改善」「(2)教育方法改善」「(3)学習支援（主として側面的支援）」「(4)就職支援等広義の課外教育支援」「(5)その他教育改善の取り組み」「(6)研究事業の高度化等」を目的とする事業を、③志願者確保については、「(7)募集力強化」を目的とする事業を推進し、これらの取り組みを財政や経営面で支援するため「(8)組織・財務体質の強化」を図っています。

大学においては、「環境」等の新たな教育領域への展開、独自教材の開発等の教育改善や、入学前教育、補習教育及びｷｬﾘｱ教育等の補完的教育が積極化しています。また、これらの活発な PR 活動も行っています。短大においては、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ学習（ｷｬﾘｱ目標ごとに学習する少人数教育ｼｽﾃﾑ）を中心に、資格取得支援、FD 等のｷｬﾘｱ形成重視の活動が活発化しました。

また、高校では、進学・就職実績や志願者・入学者の数値目標の設定による教職員の役割・責任を明確化を進め、積極的な取り組みを行い、後述のとおり大きな成果を創出しています。

◆学園全体、大学の事業　　（千円単位）

事業目的別分類	事業内容等	予　算	決　算	差　異
(1)教育内容改善事業	JABEE 認証取得支援・取得後のｼｽﾃﾑ整備、環境教育の推進、創成型・動機付教育重視の実習など（5 学科 7 事業）	7,773	7,346	427
(2)教育方法改善事業	実験関連設備更新・環境整備、新教材導入、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｽｷﾙ教育、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの段階的演習課題開発、英語ﾌﾟﾚｲｽﾒﾝﾄﾃｽﾄ、体験型授業など（7 学科 12 事業、工作ｾﾝﾀｰ 1 事業）	48,173	46,883	1,290
(3)学習支援事業（主として側面的支援）	入学前教育、入学前集合研修、基礎科目ﾁｭｰﾀｰ事業、脱落防止対策、入学生ｱﾝｹｰﾄなど（5 学科 5 事業、事務局 2 事業）	2,574	2,024	550
(4)就職支援を始めとした広義の課外教育支援事業	遠方地区就職活動旅費補助、学内合同企業面談会、保護者向就職ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ、ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ推進、就職先開拓企業訪問、資格取得支援、ものづくり関連活動支援など（8 学科 9 事業、事務局 30 事業）	47,458	45,645	1,813

事業目的別分類	事業内容等	予　算	決　算	差　異
(5)その他総合的教育改善の取り組み	教育ｼｽﾃﾑ外部評価、研究会への教員派遣、ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ環境整備、学生脱落防止のための職員向けｽｷﾙｱｯﾌﾟ、新入生学外研修など（2学科3事業、情ｾﾝﾀｰ1事業、事務局9事業）	55,475	49,251	6,224
(6)研究事業の高度化	ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ・情報科学・環境科学各研究所公募研究、ﾏｲｸﾛﾅﾉ金型開発ｾﾝﾀｰ、ﾊｲﾃｸﾘｻｰﾁｾﾝﾀｰ各研究事業	59,190	54,311	4,879
(7)募集力の強化事業	学科別ﾘｰﾌﾚｯﾄ、高校訪問、赤本出版、ﾏｽ媒体・雑誌・看板等による広報、WEB広報、ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ、ｷｬﾝﾊﾟｽﾌｪｱ福岡への参加など（9学科13事業、事務局19事業）	125,133	112,320	12,813
(8)組織・財務体質の強化等	大学学部等改編構想、第四次中期経営計画（ﾏｽﾀｰﾌﾟﾗﾝ）策定など（事務局5事業）	15,663	14,783	880
（合　計）		361,439	332,563	28,876

◆短大の事業　　（千円単位）

事業目的別分類	事業内容等	予　算	決　算	差　異
(1)教育改革・改善事業	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ学習推進、総合ﾒﾃﾞｨｱｾﾝﾀｰによる教育、教養ｾﾞﾐ強化、教員研修、体験型英語教育（海外語学研修等）など	24,402	21,722	2,680
(2)就職支援事業	大学共同実施の就職支援、資格取得支援、大学編入学支援(対策講座等)など	2,000	739	1,261
(3)志願者対策事業	大学と共同実施する広報活動、短大独自高校訪問、体験入学、自己推薦対話型入試、ﾐﾆｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ開催など	4,010	3,485	525
（合　計）		30,412	25,946	4,466

○文部科学省委託事業

平成19年度「社会人学び直しﾆｰｽﾞ対応教育推進ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ」選定事業

『e-ﾋﾞｼﾞﾈｽで活躍するためのWEBﾃﾞｻﾞｲﾝ学びｻﾎﾟｰﾄﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ』（事業費8,227千円）

◆高校の事業　　（千円単位）

事業目的別分類	事業内容等	予　算	決　算	差　異
(1)進学強化事業	補習教育拡大(個別指導強化等)、受験対策強化(小論文指導強化等)、教科教育力向上(教員研修)、Ⅱ類受験対策強化(勉強合宿等)、ALTなど	14,660	14,683	▲23
(2)課外教育改善事業	吹奏楽部楽器更新	2,800	2,733	67
(3)志願者対策事業	中学校・塾訪問、保護者説明会拡充	2,540	1,919	621
（合　計）		20,000	19,335	665

◆その他の事業（決算額）

・学業特待、特技特待、経済的困窮者救済等奨学費

（大学：139,177千円、短大9,350千円、高校93,910千円）

・受託研究、共同研究、奨学寄付事業（22,093千円）

（3）施設等の投資活動

大学及び短大については、平成16年度を以て、老朽化した教育棟などｷｬﾝﾊﾟｽ全体の全面更新を終えているので、当年度の投資は、学生の安全確保や快適性・教育機能向上に資する設備付加、不具合の調整に留めています。特に、平成10年度以降、他大学に先駆けて進めた講義室のﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ化について、約10年の使用により著しく機能低下がみられるため、当年度から翌年度にかけて必要性に応じて順次、更新を行っています。

高校については、大学、短大の施設が第Ⅱ期施設整備計画によって、安全性や快適性、教育機能の面で、飛躍的に向上したことに対して、高校校舎は、約20年の使用に伴い、不具合が多く生じていました。そこで、当年度から内外装修復、給排水・空調設備、PC・黒板・LAN 等の更新、耐震補強、並びにﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ化等の大規模な改修工事に着手(平成20年度終了予定)しています。(事業内容は平成20年度事業報告書に記載予定)

事業の内容等	事業経費（千円単位）
講義室ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ等AV機器更新	11,000
新宮ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ一部改修工事	10,000
寮等、空調機器更新	3,500

事業の内容等	事業経費（千円単位）
高校校舎改修工事（建設仮勘定） ・ﾎｰﾑﾙｰﾑ 42 教室内装修復、黒板、空調設備、照明設備の更新 ・PC4 教室内装修復（2 教室から 4 教室へ拡大） ・PC・LAN 設備の更新、一部ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ化 ・ﾄｲﾚ改修（洋式化、乾式化、女子ﾄｲﾚのﾘﾌﾚｯｼｭ化） ・耐震補強工事（筋交い工事等）　など	631,447
（H20 年度改修予定） ・廊下全面改修、外壁全面改修、外構改修　など	
その他緊急修繕	10,500
（合　計）	666,447

（4）学部・学科等設置、改組、名称変更等

平成 19 年 4 月 1 日　大学院社会環境学研究科設置
　　社会環境学専攻開設
平成 20 年 3 月　東京事務所移転（ｺﾗﾎﾞ産官学入会、下記参照）
　　3 月　JR 筑前新宮駅を「福工大前駅」に駅名変更
平成 20 年 4 月　就職強化委員会設置（大学、短大学生及び高校生徒の就職支援）

（ｺﾗﾎﾞ産官学）
経済活動の発展や社会貢献を目的に、教育機関、研究機関、国・地公体、産業界、金融機関等の連携を図るための組織

（5）諸活動の成果等

①教育改革・改善

（「平成 19 年度大学教学特別予算（教育改革・改善を主目的とした予算）の実績調査総括」より関係部分抜粋）

過年度から、教育力向上を主目的として、継続的に教育・学習の内容及び方法の改善、教材、設備等の更新、教育ｽｷﾙ開発等の教育改善の取り組みを積極的に行っています。これらの取り組みの中には、教育効果が即座に現れ難い施策や、成果が生じたとしても複数事業の複合効果である場合が多く、成果の確認が容易ではないものが多くあります。そこで、大学では、教育改善推進委員会の事業評価に加え、教務課が行う「学生による授業評価」ｱﾝｹｰﾄによる点検や、管財課が行う「設備利用状況調査」による点検を併行して実施し、成果確認に努めています。さらに、学園全体の「PDCA による目標管

理」ｼｽﾃﾑの中で、諸事業の成果確認を書面調査及び実績報告会（成果発表会）を活用して実施しています。

当年度も、平成 18 年度以前に教学特別予算で実施した諸事業（38 事業）について実績調査を行いました。上述の目標管理ｻｲｸﾙ（PDCA）が定着したことに伴い「事後評価とその定量的評価の重要性」の認識が高まり、全ての事業について自主的に実施状況とその成果度合いについての事後評価が行われていることが確認されました。全体としての評価結果は以下のとおりです。

評価項目	評　価　結　果
a）計画実現性	・9 割以上の事業が全く問題なく計画どおりに実施されている。
b）予算計画性	・約 9 割の事業が予算の費用計画に基づいて執行されている。
c）経済効率性	・全ての事業について不要不急の支出はなく、物品等は廉価で調達されている。 ・9 割以上の事業が公費助成を受けて実施されている。
d）目標達成度 1 （成果確認の計画性）	・定量的評価の工夫が進展している一方で、当初予定された成果確認が行われていない事業が散見される。
e）目標達成度 2 （成果創出度）	・当初目標どおりに成果が創出されたとする事業は約 7 割である。
f）事後評価	・次期に向けた改善検討が不明確な事業が散見される。

また、当年度は、上記の評価結果の経年変化についても総括を行っています。a）計画実現性、b）予算計画性及びc）経済効率性については、毎年改善が進み、全く問題は生じていません。また、正確に事業評価を行うための意識や関連手続きの改善が進むにつれ、教育そのものと事業管理のあり方について、より本質的な課題も明らかになっています。今後の教育改善に有益な検証結果の蓄積が行われ、①事後評価を次期の改善に繋げることの重要性、②高額事業の厳格管理の必要性、③取組実施体制（学科独自又は全学共通など）検討の重要性等が確認されています。

これらの課題等については、平成 20 年度から改善検討に着手され、教育改善の取り組みはさらに強力に推進される予定です。

以上のように、一連の管理手法は今年も厳正化され、継続して改善が施され、前年に続き殆どの事業（当年度は 94%の事業を補助申請）が外部助成金の審査を経て補助採択されており、これらのこと等から総合的に判断すれば、教育改善の取り組みは概ね良好との判断ができます。

なお、当年度、外部助成金に採択された取り組みの概要は以下のとおりです。

◆大　学

採択課題	取り組み概要
1)ﾓﾉづくりｾﾝﾀｰにおける創造性教育の実践とﾁｬﾚﾝｼﾞ精神の育成	・ﾛﾎﾞｶｯﾌﾟ、ｿｰﾗｰｶｰ、電気自動車、太陽光発電、ﾛﾎﾞｺﾝﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ、ﾛﾎﾞｯﾄ相撲、ｿｰﾗｰﾎﾞｰﾄ　など
2)統合的ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑによる教育の展開	・学内合同企業ｾﾐﾅｰ、遠方地区就職活動旅費補助、ご父母への就職ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ、ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ推進　など
3)教育の幅を拡げる複合教育の取り組み	・新入生入学前研修、新入生学外研修、ｲﾝｶﾚ交通費補助、学生脱落防止指導ｽｷﾙｱｯﾌﾟ　など
4)早期・的確な基盤教育の拡幅	・各学科単位で実施する入学前教育 ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｽｷﾙ能力の開発・英語ﾌﾟﾚｲｽﾒﾝﾄﾃｽﾄ など
5)地域ﾈｯﾄﾜｰｸによる社会性教育	・NPO 法人を活用した地域貢献活動　など
6)課外活動を通じた進路保証の取り組み	・吹奏楽部、ﾗｸﾞﾋﾞｰ部、硬式野球部、女子柔道部等の活動を通じた社会人材の育成
7)図書館による学習支援のあり方見直し	・課題図書、就職、資格関連図書の選書を通じ読書を促す取り組み
8)ISO14001 認証活動を通じた総合的学習	・環境 ISO 認証維持活動による環境教育 ・ﾋﾞｵﾄｰﾌﾟを活用した環境人材の育成
9)学力・意欲の二極化対策としての学習指導等補完的教育ｼｽﾃﾑ	・新入生ｱﾝｹｰﾄや学生授業評価結果に基づく学習意欲学力向上方法の改善
10)社会の求める技術者育成を目指した教育の具体的実践	・生物学実験、CAM ﾊﾟｿｺﾝ、設計用ｼﾞｬｯｷ学習装置ﾛﾎﾞｯﾄ教材、ｳｪｻﾞｰｾﾝｻｰｼｽﾃﾑ、手作りﾓｰﾀ工作実習等による専門技術者育成
11)Web ｺﾐｭﾆﾃｨを活用した効果的な学生ｻﾎﾟｰﾄ環境の構築	・貸出ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝの充実や学生情報ﾎﾟｰﾀﾙｻｲﾄの充実によるﾘｱﾙﾀｲﾑ学習状況の把握　など

◆短　大

採択課題	取り組みの概要
1) 成果確認方式による教育内容継続評価ｼｽﾃﾑの構築	・ｼｽﾃﾑ相談員制度を活用した「丁寧な教育」支援のための継続評価ｼｽﾃﾑ
2) 進路直結ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ型実践教育の取り組み	・希望職種に対応した「業界基本ｽｷﾙ」を身につけるﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ学習の実践
3) Web ｺﾐｭﾆﾃｨを活用した効果的な学生ｻﾎﾟｰﾄ環境の構築	・貸出ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝの充実や学生情報ﾎﾟｰﾀﾙｻｲﾄの充実によるﾘｱﾙﾀｲﾑ学習状況の把握（大学と共同実施）
4) 教育の幅を拡げる複合教育の取り組み	・新入生入学前研修、新入生学外研修、ｲﾝｶﾚ交通費補助、学生脱落防止指導ｽｷﾙｱｯﾌﾟ（大学と共同実施）

②学生生徒生活支援

大学では、留年・休学・退学等の減少を主目的として、多欠席学生指導強化、留年者の指導強化等面談による指導を中心に、各学科、学生課と教務課が連携し、全学をあげて実施しています。しかしながら、退学者数等は 186 名（前年並）であり、はっきりとした効果は生じていません。これは厳格な成績評価に伴う留年者増加、入学者の低学力化等がその理由でありやむを得ないとの意見もありますが、複雑化している諸問題に対して多くの手だてを持って、より適切・丁寧に対応することが求められています。なお、平成 18 年 10 月に設置された教育改善推進委員会で、入学後早期段階での数学、英語等の基礎教育及びｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の重要性が確認され、これらに対して基礎教育ｾﾝﾀｰ（仮称）を設置し強力に推進していくことが決定しています。

以上の他、交通事故防止、校舎内の全面禁煙化等の環境改善、丁寧な教育情報提供を目的とした父母後援会個人面談会、地域一体となったまちづくりを目的としたｷｬﾝﾊﾟｽｻﾐｯﾄの開催等を積極化し、相応の成果を得ています。特に、周辺地域の青少年育成や環境活動については、子供育成ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ、ｷｬﾝﾊﾟｽｸﾘｰﾝ活動、ﾋﾞｵﾄｰﾌﾟ講習会、ISO 活動等によって毎年拡大、充実しています。

短大では、学力・意欲の二極化等の問題は大学に先行して拡大する可能性が高いとの判断の下に、より行き届いた学生指導（顔のみえる教育）として、独自に開発した出欠席管理ｼｽﾃﾑを活用し、全教員と事務局が総力で学生との交流、指導等を強化しています。この結果、退学率、留年率共に過年度から連続して低下し、この状況を継続しています。また、1 年後期からｽﾀｰﾄするﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ学習は少人数のｾﾞﾐ形式で行い、学習効果を高めることはもとより、就職支援に至る学生生活全般にわたって、細やかな関わりが実現し大きな成果をあげています。

高校については、①挨拶・清掃指導、②課外活動、③環境活動等を通じて生徒指導の徹底を図っています。特に、環境 ISO 活動（H16.12 月認証取得・H19.11 認証更新）では、ｸﾗｽ・学年運営、生徒会運営、進路指導、生活指導及び職員研修等学校運営の諸活動に全般的に教材として取り上げられ、PDCA による管理ｻｲｸﾙによって「校内美化・ｺﾞﾐ減量活動」「学校周辺の清掃活動」「環境対策に関する研修会、

活動発表会」等の目標（36 項目）の殆どが確実に達成されています。これらの取り組みは、進学・就職の実績向上に少なからず好影響を及ぼすと共に、高校全体としての意識・ﾓﾗﾙの向上に大きな役割を果たしています。

③大学・短大の就職支援対策

国の経済の回復に伴い、全国的に雇用指標は上向きとなっています。これに伴い九州地区、特に福岡県の雇用環境も改善が進んでいます。大学等の就職状況も全般的に向上していますが、その中でも本学の就職状況は大学・短大共に優位にあり、特に、ﾆｰﾄ､ﾌﾘｰﾀｰ比率が少ないことが外部からも高く評価されています。これは、本学が教育改善活動と等しく進路保証の一環として就職支援活動を積極化してきた成果と言えます。入学後早期から適用する「ｷｬﾘｱ形成ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ（1 年から 4 年までの学生の意識や知識の習熟度に沿ったｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ方式の就職支援ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ)」が、学生にとって学習意欲・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の向上、職業意識の明確化、責任感･自立心の醸成等を促しており、当ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの様々な取り組みが総合的方策として結実していると言えます。

今後も、実社会・産業界から求められている能力や人材像を明確にし、それらとの整合性を高めることや、「学んだことを活かすことができる」等の学生の就職満足度を高める取り組みを拡大することで、当ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑをさらに充実させる予定です。当年度は、就職後の定着状況、就職先での活動状況等について企業へのｱﾝｹｰﾄ調査を行い、就職支援（正規課程での就職教育を含む）の現状について点検・評価し、あり方見直しに着手しています。

なお、当年度の就職状況は下表のとおりであり、過年度に続き好調さを維持しています。

学部等区分		就職対象者	就職希望者	就職希望率	内定者	内定率
大学学部	19 年度	868	765	88.1%	757	99.0%
	18 年度	928	823	88.7%	812	98.7%
	（増減）	▲ 60	▲ 58	▲ 0.6%	▲ 55	0.3%
大学院	19 年度	64	61	95.3%	61	100.0%
	18 年度	48	46	95.8%	46	100.0%
	（増減）	16	15	▲ 0.5%	15	0.0 %
短大	19 年度	94	67	71.3%	66	98.5%
	18 年度	92	65	70.7%	64	98.5%
	（増減）	2	2	0.6%	2	0.0%

就職対象者：卒業者数－進学者数

④高校の進学・就職対策

進学については、国公立大学や難関私大への合格が 6 年連続で向上しています。進学実績向上方策の改善策として、過年度より SS 講座（入試対策特別講座）と通常教育課程の連携強化、模試の事後指導徹底、独自模試の実施、早朝・放課後補習、勉強合宿、進学相談室資料の充実等を実施し、指導体制、内容と方法、並びに環境面で総合的な見直しを行っています。これらのことは、Ⅰ～Ⅲ類全ｸﾗｽで取り組み、それぞれに相応の成果が生じています。殊にⅡ類からは、初の九州大学合格者を輩出しました。

一方、就職についても、就職対策としての特別補習、模擬面接等によって、進学指導と同等に細かな指導を継続、また、国家資格、英検・ﾊﾟｿｺﾝ検定、ｼｽｱﾄﾞ・情報処理技術者等の能力認定を奨励し過年度から継続して多くの合格実績を出す等、より積極的な支援を行っています。それらの結果、当年度は九州電力や九電工等地元の優良企業への就職が増加する等良好な就職状況となり、就職率も 100%を達成しました。

進学状況及び就職状況は下表のとおりです。

◆大学等進学（合格者）状況

国公立大学等	H19	H18	増減
九州大学	5	3	2
九州工業大学	5	3	2
福岡教育大学	2	2	
福岡県立大学	2		2
北九州市立大学	6	4	2
福岡女子大学	2	1	1
長崎大学	1	2	▲1
熊本大学	1	3	▲2
佐賀大学	1	1	
宮崎大学		1	▲1
山口大学	1	3	▲2
下関市立大学	6	5	1
奈良女子大学	1	0	1
防衛大学校	5	4	1
その他国公立大学等	16	7	9
国公立大学等小計	54	39	15

私立大学	H19	H18	増減
福岡工業大学	976	828	148
西南学院大学	33	25	8
福岡大学	113	90	23
福岡女学院大学	3	2	1
立命館ｱｼﾞｱ太平洋大学	3	1	2
東京理科大学	1	1	
日本大学	1		1
立教大学		1	▲1
東海大学	1	1	
同志社大学	1	2	▲1
立命館大学	6	7	▲1
関西大学	1	2	▲1
関西学院大学	1	1	
その他私立大学等	70	94	▲24
私立大学小計	1,210	1,055	155
（合　計）	1,264	1,094	170

◆高校の就職状況

就職状況	就職対象者	就職希望者	就職希望率	内定者	内定率
19 年度	95	95	100.0%	95	100.0%
18 年度	95	95	100.0%	95	100.0%
（増減）	0	0	－	0	－

就職対象者：卒業者数－進学者数等

⑤国際交流事業

ｉ）新たな学術交流協定締結

現状 4 カ国(中国、韓国、米国、豪州)の 8 大学と姉妹校関係にありますが、今般、中国の 2 大学及びﾀｲの 1 大学と新たに学術交流協定を締結しました。新たに本学の海外ﾈｯﾄﾜｰｸに加わった大学は青島科技大学（中国山東省）と北華大学(中国吉林省)、及びﾀｲのｷﾝｸﾞﾓﾝｸｯﾄ工科大学(ﾊﾞﾝｺｸ)です。特に、北華大学とは、現地に本学の「日本語教育ｾﾝﾀｰ」を設立し、半年の日本語教育を提供した後、現地にて入学試験を実施して合格者を本学に受け入れるという「合同ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ」が開始されます。

東南ｱｼﾞｱで初めての姉妹校大学となるﾀｲのｷﾝｸﾞﾓﾝｸｯﾄ工科大学は、ﾊﾞﾝｺｸに位置する王立の名門工科大学であり、今後優秀なﾀｲ人学生が留学してくることを期待しています。

ⅱ）南京理工大学(中国南京市)とのﾀﾞﾌﾞﾙﾃﾞｨｸﾞﾘｰ協定調印(H20.2.18)

従来、学術交流協定締結校であった中国有数の理工系大学である南京理工大学とは、今般大学院ﾚﾍﾞﾙでの合同ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑに関する協定が調印され、本学及び南京理工大学の大学院生の相互交流の道が開かれました。この合同ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑは、南京理工大学の大学院生が現地にて 6 ヶ月在籍の後、本学に入学し、所定の課程を修了した場合には本学の修士学位を授与します。さらに、南京理工大学からも認定されれば、南京理工大学の修士学位も併せて授与されるというﾀﾞﾌﾞﾙﾃﾞｨｸﾞﾘｰ(二重学位)制度です。本学の学生にも等しく南京理工大学への留学のﾁｬﾝｽが広がったといえます。

⑥志願者対策

大学の志願者は前年と比べ、情報工学部と社会環境学部は僅かではあるが減少、工学部は大きく増加（7.7%ｱｯﾌﾟ）し、全体としては 2.3%の増加となっています。これに伴い H20 年度の入学者は 30 名増加しています。この志願者・入学者の増加について、九州・山口地区の理工系学部を主力とする同系統の他大学との比較において本学は明らかに優位な状況と言えます。しかし、学科によっては所定人員の確保には至っておらず、全体の実質競争率（受験者に対する合格者の割合）は低下傾向にあり入試の易化は続いています。また、当年度、他大学進学を理由に入学辞退した受験生の進学先は国立大学や福岡大等の大規模大学が増えており、これらの大学との競争環境はいっそう激化していると言えます。18 才人口の減少、ゆとり教育世代の理系離れ、雇用状況回復に伴う工業高校生の就職志向の高まり等学生募集環境は厳しさを増す中で、今後ますます「教育改革力の発揮とその成果に基づく募集力の強化」を進展させ、いっそうの特色化が求められています。

短大は志願者は前年並、入学者は 19 名増加し前年比 114.2%となっています。全国的にみて、多くの短大が定員を確保できない（6 割強が定員割れ）状況の中で、やむを得ないとの意見もありますが、本学の強み（教育環境の充実度、低学費等）を訴求しながら、進路保証に注力し高校や企業の評価を高め、志願者増加に繋げなければなりません。

一方、高校は、当年度も前年度に続いて大きく志願者を増加（300 名増）させています。福岡市では私立高校 27 校中 21 校が入学定員を確保できない厳しい状況で、本校は定員を上回って入学者を確保（550 名定員に対して 671 名入学）しました。これは、高校教職員が一体となって募集活動（中学訪問、高校見学会など）へ力を注ぎ、入学後の正課・課外双方での人間性教育の徹底、さらに進学強化、進路保証の取り組みが毎年拡大され確実に成果をあげていることが中学校や進学塾等に高く評価されてきたことが主因と考えられます。

学部等	19 年度（20 年度入試）		18 年度（19 年度入試）		増　減	
	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
工学部	1,767	439	1,640	416	127	23
情報工学部	1,441	394	1,454	400	▲ 13	▲ 6
社会環境学部	518	183	550	170	▲ 32	13
（大学学部合計）	3,726	1,016	3,644	986	82	30
短期大学部	223	153	230	134	▲ 7	19
高　校	1,726	671	1,426	556	300	115

⑦課外活動の状況

◆ﾓﾉづくりｾﾝﾀｰﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ活動

ﾓﾉづくりｾﾝﾀｰは、教育方法の多様化の重要性に対応し、ﾓﾉづくり教育を推進することによって学生、生徒の創造力開発と学問への関心を養うことを目的にしています。活動の主体となるﾓﾉづくりﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄは、自発的に参加する学生・生徒によって行われ、各種ｲﾍﾞﾝﾄやｺﾝﾃｽﾄに参加し、その中で頭書の学習目的を達成することを目標としています。この他に、学内の卒業研究、個人・ｸﾞﾙｰﾌﾟの課外創作活動の支援、小中学生向けﾓﾉ作り教室開催や環境保全活動等の社会貢献活動を行っています。

当年度は電気自動車ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄをはじめ 14 ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄが活動し、卒業研究等では延べ 624 名、一般の創作活動では延べ 1,346 名の利用に役立っています。この他、正規授業では 1,694 名が利用し、全体の利用者は延べ 15,834 名に上っています。

なお、当年度の活動の概要は以下（次頁）のとおりです。

（全国大会等への出場）

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ名	活 動 成 績
電気自動車	四国 EV ﾗﾘｰ 2007　ﾛﾝｸﾞﾃﾞｨｽﾀﾝｽ 2 位、未舗装路走行 2 位
ﾛﾎﾞｺﾝ	NHK 大学ﾛﾎﾞｺﾝ 2007 － ABU ｱｼﾞｱ・太平洋ﾛﾎﾞｺﾝ代表選考会出場
ﾛﾎﾞｯﾄ相撲	全日本ﾛﾎﾞｯﾄ相撲 3 kg級中国地区大会出場、九州地区大会出場
ｿｰﾗｰｶｰ	ｿｰﾗｰｶｰｵｰﾄﾎﾟﾘｽ走行会出場 DREAM CUP ｿｰﾗｰｶｰﾚｰｽ鈴鹿 2007 出場　49 ﾁｰﾑ中 14 位
ｿｰﾗｰﾎﾞｰﾄ	柳川ｿｰﾗｰﾎﾞｰﾄ 2007 出場
飛行ﾛﾎﾞｺﾝ	全日本学生室内飛行ﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽﾄ　飛行機ﾀｲﾌﾟ 31 ﾁｰﾑ中 11 位
ﾛﾎﾞｶｯﾌﾟ	RoboCup ｼﾞｬﾊﾟﾝｵｰﾌﾟﾝ 2007　四足ｻｯｶｰ競技準優勝 RoboCup 2007 ｱﾒﾘｶ・ｱﾄﾗﾝﾀ世界大会　四足ｻｯｶｰ競技ﾍﾞｽﾄ 16、ﾁｬﾚﾝｼﾞ種目 5 位

（社会活動、ｲﾍﾞﾝﾄ出展）

活 動 概 要
ﾓﾉづくり講演会の開催（前期受講者 326 名、後期 280 名）
ふしぎ発見ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ（西日本総合展示場）出展
青少年のための科学の祭典熊本大会 2007 出展
ﾗｲｾﾝｽﾅﾋﾞ 2007in 下関　紙ｺﾌﾟﾀｰ工作教室開催など
環境ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙﾌｸｵｶ 2007　ｿｰﾗｰｶｰなどの出展
ﾌｸｵｶｻｲｴﾝｽﾏﾝｽ 2007　手作りﾓｰﾀｰ製作教室、ﾗｲﾄﾌﾟﾚｰﾝ製作教室などの開催
香椎まちなか美術館　手作りｱｸｾｻﾘｰ出展など

◆大学・短大強化ｸﾗﾌﾞの活動

ｸﾗﾌﾞ名	活 動 成 績（上位大会出場等）
硬式野球部	福六春季ﾘｰｸﾞ戦 2 位 福六秋季ﾘｰｸﾞ戦 2 位(同率)
ﾗｸﾞﾋﾞｰ部	九州学生ﾘｰｸﾞ戦 2 位
女子柔道部	第 16 回九州学生柔道優勝大会（団体）2 位 全日本学生優勝大会(団体)ﾍﾞｽﾄ 8 第 20 回九州学生柔道選手権大会（個人）3 位（2 名） 全日本学生柔道選手権大会（個人）2 名出場 九州ｼﾞｭﾆｱ選手権大会（個人）1 名出場
吹奏楽部	第 23 回福岡県吹奏楽ｺﾝｸｰﾙ金賞 第 52 回九州吹奏楽ｺﾝｸｰﾙ金賞 第 55 回全日本吹奏楽ｺﾝｸｰﾙ銀賞 第 36 回福岡ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙｺﾝﾃｽﾄ金賞 第 33 回九州ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙｺﾝﾃｽﾄ金賞

◆高校強化ｸﾗﾌﾞ等の活動（太字*は強化ｸﾗﾌﾞ）

ｸﾗﾌﾞ名	活 動 成 績（上位大会出場等）
野球部*	第120回九州地区高校野球大会（ﾍﾞｽﾄ8）
ﾗｸﾞﾋﾞｰ部*	第87回全国高等学校ﾗｸﾞﾋﾞｰ大会福岡県予選大会（ﾍﾞｽﾄ8） 第30回全九州高等学校ﾗｸﾞﾋﾞｰ新人大会福岡県予選（ﾍﾞｽﾄ8） 第60回全九州高等学校ﾗｸﾞﾋﾞｰ大会福岡県予選（ﾍﾞｽﾄ8）
柔道部*（女子）	金鷲旗高校柔道大会（3位） 第10回九州高等学校新人柔道大会（優勝） 第29回全国高等学校柔道選手権大会出場
剣道部*（男子）	玉竜旗高校剣道大会ﾍﾞｽﾄ32 福岡県高校新人大会（団体3回戦）
吹奏楽部*	第54回全日本吹奏楽ｺﾝｸｰﾙ（高校の部）金賞受賞 第20回全日本高等学校選抜吹奏楽大会 九州代表

空手道部	第27回全国高校空手道選抜大会出場 福岡県高校空手道新人大会中部・南部ﾌﾞﾛｯｸ予選会（女子個人の部3位）
弓道部（男子） 弓道部（女子）	第56回箱崎八幡宮奉納弓道大会（総合の部個人優勝） 第53回全九州高校体育大会中部ﾌﾞﾛｯｸ予選（個人戦県大会出場）
ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部（女子）	福岡県高校新人大会（ﾍﾞｽﾄ8） 高校選抜大会県大会（ﾍﾞｽﾄ8） 福岡県高校総体（ﾍﾞｽﾄ8）
硬式ﾃﾆｽ部（男子）	新人戦福岡県大会(団体戦ﾍﾞｽﾄ6)
ｿﾌﾄﾃﾆｽ部	平成19年度ｿﾌﾄﾃﾆｽ秋季選手権大会（男子B級優勝、準優勝）（女子C級優勝）
工業科	第19回全日本ﾛﾎﾞｯﾄ相撲九州大会（ﾗｼﾞｺﾝ型：優勝（4連覇）、自立型：2年連続準優勝） 第15回高校生ﾛﾎﾞｯﾄ相撲全国大会（ﾗｼﾞｺﾝ型：優勝、自立型ﾍﾞｽﾄ5）

なお、上記の強化ｸﾗﾌﾞの活動に対しては、本学独自の育英制度として学生・生徒の学費軽減、関係する諸活動経費の補てん等に相応の予算が付与されています。目的は、直接関係する学生・生徒・教職員の学習（教育）活動の奨励はもとより、学園全体の教育研究活動の活性化をはじめ、学校運営の充実強化にあります。

従い、当制度が組織や財政面で適正規模であるか、また、学生募集、入学者確保、教育研究活動の活性化、進路保証、学生・教職員の志気向上等について、十分に機能し効果を発揮しているか等の不断の検証を行うこととしています。